

# 忙 申 閑

私が通った小学校の側に玉串川という川がありました。

川幅5mほどのこの川が昔は大和川だったと聞いた覚えがあります。

当時は気に掛けなかったのですが、最近になり大和川の歴史を振り返ってみる機会がありました。

大和川は約9,400年前（縄文時代早期）柏原市付近で石川と合流し、そこから上町台地の東側を北進していたようです。その後、縄文海進と言われる海拔上昇があり、河内湾が誕生しました。この時代、河内平野の多くが海底でした。北は千里丘陵や枚方丘陵、南は平野区や八尾市南部という、現在の大阪からは想像できないような地形

となりました。梅田や東大阪でクジラの骨が見つかることも、これを裏付けています。上町台地は水没せず、大阪湾と河内湾に挟まれた細長い半島のように残りました。

弥生時代中期になると、淀川や大和川からの土砂が堆積し河内湾は縮小されるとともに淡水化され、河内湖へと姿を変えます。更に時代が進むと、河内湖も陸地化が進み河内平野へと変遷を遂げます。大和川は長瀬川、平野川、恩智川、そして玉串川など無数の川に分枝していました。河と河にはさまれた河の内の土地が河内と呼ばれるようになったそうです。

前記の支流は堆積により天井川となり、

# 大和川と河内湾

広報委員 弓崎 恭俊

河内平野は度々氾濫の被害に遭いました。この氾濫を防ぐために、大和川の付け替え工事が古代から度々行われました。『日本書紀』にも大和川の排水を促す工事が行われた様子が記されています。その後も付け替え工事がなされましたが、その事業は困難を極めたようです。結局、大和川が堺方面から大阪湾に注ぐのは、江戸時代に入ってからになります。元禄7年(1704年)、五代将軍徳川綱吉の時代に大和川の付け替え工事が開始されました。柏原市内の安堂付近で流れを左に90度変え、堺市と大阪市の間から、大阪湾に直接流れ込ませるといふ大事業です。工期は3年間の予定でしたが、多くの百姓の働きや商人たちの支援に

よってわずか8カ月で完成に至りました。

付け替え工事の結果、大和川は大阪平野を西進し大阪湾へと注ぐこととなります。旧流路にあたる中河内では河川敷や池の跡地が新田となり、木綿栽培が盛んになりました。明治4年(1871年)には、大和川が摂津国と和泉国の境に改められました。

私自身、八尾市で生まれ育ち、現在は柏原市内で開業し、自宅からは大和川を眺めることができます。時に愛犬とともに河川敷の散歩を楽しみますが、このような歴史を知ると日頃の風景がまた違ったもののように感じられます。